

都市計画(City Planning)

担当教員名	石内 鉄平	
学科・専攻, 科目詳細	都市システム工学科 5年 前期 2単位 学修単位 講義	
学科のカリキュラム表	専門科目 選択科目	
共生システム工学の科目構成表	専門工学科目 専門応用系	
学習・教育目標	共生システム工学	C-1(10%) F-1(30%) H-1(60%)
	JABEE基準1(1)	(b)(d)(e)
科目の概要	都市システム工学が対象とする多くのものは都市施設などの社会資本であるが、都市計画では、都市施設のみならず、法的な規制も重要な政策手段となる。本講義では、都市計画の置かれた立場を確認し、都市計画手法の基本的な考え方を理解するとともに、都市や地域の実例を通して都市地域空間を計画的な視点から見る目を養う。受講生との対話を重視し、講義中の質問や小テスト・小論文、更には、演習課題などで理解度を確認しながら講義する。	
テキスト(参考文献)	教科書(都市計画:新谷洋二ほか著、コロナ社) 教科書を補足するためのプリントも適宜配布する。	
履修上の注意	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、45時間に相当する学習内容である。 都市計画の手法や用語を単に覚えるというのではなく、現象や対策の背景を理解するとともに、都市計画の基本的な考え方を広く理解することが重要である。	
科目の達成目標	(1)都市や都市施設が社会や自然に及ぼす影響・責任を理解するとともに、人々の幸福で快適な生活を保障し、かつ良好な都市環境を保全するために何が必要かを考えることができる。(2)都市計画の基本的な考え方を修得し、いろいろな地域の個別計画や総合計画に応用できる。(3)都市や地域に興味を持ち、都市のメカニズムを理解したうえで、よりよい都市を創造的に探求できる。 目標を達成するためには、授業以外に次の自己学習が必要である。 1)都市問題を整理する。 2)身近な都市を取り上げ、都市の地域特性と望ましい都市像を検討する。 3)研修旅行で訪れた都市の問題点を考察し、望ましい都市の方向性を検討する。 4)土地利用上の問題点を整理する。 5)都市交通の問題点を整理し、改善策を検討する。	
自己学習	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な学習時間の総計が、90 時間に相当する学習内容である。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/3以上の欠課
	達成目標(1)は都市計画が及ぼす影響の大きさなどについて、(2)(3)は都市計画の方法論などについて、定期試験(60%)・小テスト・小論文・演習課題など(30%)、質疑応答などの授業への取り組み状況(10%)から総合して評価し、60%以上の評価点を合格とする。小論文(レポート課題)の内容は、都市計画と経済発展の観点から現状における都市計画上の問題点や課題について考察するものとする。	
連絡先	ishiuchi@akashi.ac.jp	

授業の計画・内容	
第1週	講義の全体概要の説明、 都市計画の考え方 都市計画が対象とする空間を分類整理し、都市計画で用いることが可能な手段を解説する。公的介入である都市計画の立場を理解させ、都市計画の基本的な考え方を修得させる。
第2週	都市計画の歴史(外国その1) 産業革命以後の都市に焦点を当て、欧米諸国の都市計画や、ハワードの田園都市などを代表とするニュータウンの成立と意義について講義する。
第3週	都市計画の歴史(外国その2) 大ロンドン計画を事例に、英国の伝統的な都市政策手法であるグリーンベルト政策と都市の分散化について講義する。
第4週	都市計画の歴史(国内その1) 我が国の都市は固有の文化や伝統を継承しながら現代に至っている。我が国の都市の変革を考察し、江戸期の都市に焦点を当て、都市の歴史と計画性について講義する。
第5週	都市計画の歴史(国内その2) 我が国の都市は固有の文化や伝統を継承しながらも、近代では西欧からの強い影響を受けて現代に至っている。明治以降から現在に至るまでの、我が国都市計画の経緯を講義する。
第6週	都市のメカニズム 市場メカニズムに立脚して行動する家計・企業と公的介入を目指す政府の3つの主体の行動目的と制約条件を明確化し、都市形成の基本的メカニズムを解説する。
第7週	都市基本計画と都市計画調査 都市基本計画マスタープランの位置づけと、都市計画で必要となるデータの特性とその収集について講義する。
第8週	中間試験 7回目までの内容を中間において試験する。
第9週	試験結果の返却と答え合わせ、都市スプロールと都市計画区域の設定 我が国の都市計画の大命題はスプロールの防止と解消であり、都市計画法による都市計画区域設定と、市街化区域と市街化調整区域の線引きの考え方を講義する。
第10週	土地利用計画 都市計画区域における12個の用途地域と用途規制、建築物の形態や容積規制、更には、用途地域を補完する特別用途地区などのその他の地域地区制度などについて講義する。
第11週	市街地開発事業 土地区画整理事業や市街地再開発事業など、都市空間の面的な整備を行なう市街地開発事業の考え方と、その方法について講義する。
第12週	交通問題と交通計画土地区画整理 我が国の都市交通の実態と交通問題を解説する。また、交通需要予測の概略と交通計画の基本的な考え方を講義する。
第13週	都市景観と環境 都市の景観設計を行なうための考え方や方法を説明するとともに、持続的発展可能な社会を目指すための環境問題についても講義する。
第14週	国土計画・地域計画 狭い国土に過疎・過密地域を併せ持つ我が国において、これまでの国土計画を概観するとともに、今後の我が国に望まれる国土計画・地域計画を検討する。
第15週	まちづくり まちづくりの参考事例を紹介しながら、まちづくりの必要性・考え方・方法などについて講義する。
期末試験	